

56期 4年間を振り返って

主将 クルー 下村

日頃からのご支援のほどありがとうございます。皆様のおかげで4年間無事にやり切ることが出来ました。

私自身が4年間を振り返って感じたことは、大きく分けて2つでした。

1つ目は、「沢山の人に支えられている」ということです。OBの方々や監督をはじめ、保護者の方々などから差し入れや指導をしていただきました。その支えのおかげで私たちがベストな環境でヨットをさせていただけたと感じております。また、主将に任命されてからはそれだけでなく、同期や後輩たちとも支え合いながら運営をすることができました。このように、私1人ではこの一年を終えることができなかったと感じ、皆様に感謝したいと思います。

2つ目は、「挑戦することの大切さ」です。私自身、ヨット部に入部したことは新たな挑戦でした。やったことないどころか見たこともないところからのスタートで初めは不安でいっぱいでした。もちろん、たくさん辛いこともありましたが、それでもヨット部に入ったからこそその経験をたくさんさせていただきました。特に主将としての経験は大きなものでした。そのような中で、4年間やり切れたことは私にとって大きな自信となっています。このような自信に繋がったのは紛れもなくヨットへの挑戦があったからだと思っています。

このように感じたことを今後に活かしながら日々を過ごしていきたいと思っています。

最後になりますが、私を主将に任命してくださった監督、主将として認めてくださったOBの方々、主将の私についてきてくれた同期、後輩たちに改めて感謝したいと思います。ありがとうございます。

470リーダー スキッパー 平澤

まずはこの4年間、宮内監督を始めとした、OB・OGの皆様に多大なる応援とご支援頂きまして誠にありがとうございます。私が八景島、葉山とは遠く離れた茨城県から通い、部の活動に参加し続けられたのはOB・OG会の皆様のお力添えを頂いたからと言っても過言ではございません。

このヨット部で過ごした4年間はとても長いようで、あっという間に過ぎてしまいました。ただ1つ確かなことは、獨協大学体育会ヨット部に入部したことで私の大学生活はとても充実したものとなりました。私の代は同期7名と、とても恵まれた環境の中で、1人1人が掛け替えのない大切な仲間と出会えました。

私は大学1年生の秋インカレからスキッパーとして全てのレースに出場させて頂きました。最初はレースをする度に前に何十艇もいる景色がとても悔しかったです。ですが、1つのインカレが終わるにつれて、僅かでしたがその景色は変わっていきました。大学4年生の秋インカレ予選でシングルを2回取れた記憶は、今でも鮮明に思い出せます。決勝進出を決めた瞬間、ここまで頑張ってきた良かったと思うと同時に、沢山の方々に支えられたことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。1年生ながらもスキッパーとして起用していただいた、七戸前監督、私の成績がパツとしないにも関わらず、最後まで私を1番艇として起用して頂いた宮内監督、誠にありがとうございました。この経験が私の成長を最大限にしてくれました。

最後に、この獨協大学体育会ヨット部に関わる皆様、この4年間大変お世話になりました。今後は私も、ヨット部の存続、成長に貢献できるように尽力して参ります。

どうぞよろしくお願いいたします。

会計・マネージャー 鈴木

まずはじめに、これまで支えて頂いた監督、OB・OGの先輩方、コーチ、大学関係者、保護者の方、後輩、そして4年間を共に過ごした同期、関係者の皆様に感謝申し上げます。皆さまのお陰で充実したヨット部生活を送ることができました。

ヨット部に入部したことは私にとって最大で最高の挑戦だったかもしれません。

海もヨットのスピード感も沈も整備もそこまで好きじゃない(というより苦手?)なのに部の雰囲気が好きで入部した私にはプレイヤー時代の3年間は過酷でした。そんな私にもときどき「またヨット乗りたいかも」と思うことがあるのがヨットの不思議なところですよ。

もともと部の運営やマネジメントに興味があったため3年の秋インカレ後からマネージャーに転向しました。「獨協ヨット部のマネージャーになって良かった」マネージャーにも大きな達成感を味わえるのはヨット部ならではだと思います。そして応援したいと思えるチームになってくれたから私も最後まで頑張れました。同期、後輩のみんなありがとう。

マネージャーになって、運営に関わってから辛いことばかりでした。でも、少しずつでも自分やチームの成長を感じることができ、その成長に自分が貢献できていることがとても嬉しかったです。

「全日本女子出場」「インカレ決勝進出」「決勝14位」結果が全てではないというけれど、やっぱり嬉しいです。4年間ヨット部で頑張りを続けて、たくさんの人に応援されていること、同期の大切さを実感しました。

後輩の皆さんも辛いこと、苦しいことこれからあるかもしれませんが、ぜひ仲間と乗り越えていってほしいです。君たちなら大丈夫です！(仲間には私たちOBもちろん含まれてるのでなんでも相談してね。)

改めて、4年間大変お世話になりました。そして獨協大学体育会ヨット部を応援して下さった皆様、誠にありがとうございました。

スキッパー 早坂

引退して少したった今でも決勝最終日のことをよく思い出すことができます。強豪校に揉まれ苦戦を強いられた決勝レガッタで結果としては14位となってしまったものの、皆がやり切った思いで引退できることを幸せに思います。また、3年から1年間休部していたにもかかわらず、最後のレース出場を認めていただいた宮内監督、暖かく受け入れてくれた部員には感謝しかありません。

自分のヨット部生活は、特に仲間に恵まれた4年間だったと思います。決勝進出という一つの目標のもとで時にライバルとして競い合えた同期や、頼りなかったであろう自分たちについてきてくれ

た後輩たちのおかげで、楽しい時間を過ごすことができました。こうした仲間のおかげで、辛いことも多いヨット部での活動を乗り越えられたと思います。本当にありがとうございました。

最後に、こうして充実した部活動を行えたのも宮内監督をはじめとするOBの皆様のご支援のおかげだと思います。ありがとうございました。今後は自分もOBの一員として、獨協大学ヨット部の活動に少しでも貢献できるように努めて参ります。

クルー 高橋

最初に同期や後輩といった部員の皆様、七戸前監督や宮内前監督、勝木OBや林OGをはじめとした関係者の皆様に感謝の意を示します。私たち現役が不自由なくヨットに専念できたこと、チームとして目標を達成できたことの裏には多大なるサポートがあったことをいま改めて実感しております。

思えば私にとってヨットは決して楽しいだけのスポーツではありませんでした。エゴイストの私にとっては2人乗りの470が思い通りに動かせないもどかしさや考えの不一致から周囲と衝突しチームの和を乱す結果になったことが多々あったかと思います。それでも途中で退部しなかったのはその不自由さに楽しみを見いだせたからだだと思います。フィールドの状況や艇の状態など、この競技は「不確実性」で溢れています。自身で引いた決勝の最終レースの1上まで満足のいく結果は出せませんでした、この味をもっと前に知っていればより良かったなとも思います。

最後に後輩に贈る言葉として言い忘れていたことがあったのでここに記させていただきます。1年生のみんなはまだヨットを手探りで乗っている状態で、もしかしたら楽しさを理解しきれていないかもしれません。今も大学の授業やバイト、自動車免許などやることが多いでしょう。けれどヨットは付き合い方を間違えなければこれほど熱中したスポーツはないと思えるほど魅力的なスポーツです。この先にある「楽しい」という感情は忘れずに持っていてください。

2年生はプレッシャーや雑務など責任から逃げたくなる時がきつときます。何もかも投げ出したいくなる時が。同期にすら相談しづらい問題や愚痴があったら僕らに相談してください。おそらく相談した僕の同期は親身になって相談に乗ってくれるはず。心に余裕を持ちながらヨット楽しんでください。

スキッパー 田中

日頃から獨協大学体育会ヨット部の活動に対しまして多大なご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

全日本学生女子ヨット選手権出場や、22年振りに関東学生ヨット選手権大会決勝に進出することができたのは、部員はもちろんOB・OGの皆様のお陰であると感じております。

私は広報担当であったことから、OB・OGの皆様とお話する機会も多くありました。

その中でも、皆様が口を揃えて、やはりヨット部での経験は素晴らしいものであったという話が印象的でした。

引退した今、確かに4年間楽しいことも苦しいこともたくさんありましたが、最後まで続けられて良かったと思います。

仲間と過ごした4年間の思い出は必ず自分の糧になっていると実感しております。

これまで支えてくれた仲間やOB・OGの皆様との関係を大切に、今後もヨット部に貢献できるよう尽力致します。

最後になりますが、これまでのご支援に対し心から御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

クルー 野呂

はじめに、多大なるご支援とご指導を賜りました、監督、コーチ、OB・OGの皆様にご心から感謝申し上げます。目標達成を目指す上で素晴らしい環境を整えて頂き、存分にヨットに打ち込むことができました。本当にありがとうございました。

この1年間「戮力協心」という部のスローガンを掲げ、一步一步着実に成長を続けられたこと、チームとして目標を達成できたことは、多くのOB・OGの方々が練習に来てくださり、本当に恵まれた環境下で活動できたからであると実感しております。

この4年を思い返すと、楽しいことや辛いことがたくさんありました。そして、風や船について考えたことなかった私を獨協大学ヨット部の最上級生まで成長させてくれたのは、紛れもなく周りにはいる「人」の存在でした。暑い日も寒い日も海に足を運んで下さったOB・OGの皆様。海上でも陸上でも全力でサポートしてくれた下級生。そして、切磋琢磨しながら共に4年間を駆け抜けてきた同期。沢山の「人」に囲まれ、ここまで活動を続けることができました。この環境で活動できたことは一生の誇りになると確信しております。

後輩の皆さんには、常に謙虚な姿勢と感謝の気持ちだけは忘れないで、次の代では今年度の良かった点も悪かった点もプラスに活かして目標を達成して欲しいと思います。

この部活での4年間は入部当初に想像していたよりも遥かに多くの学びがあり、人としてかなり成長できました。

改めて、4年間多大なご支援、ご声援をいただきました皆様、誠にありがとうございました。